

9番（山口良広君）〔登壇〕

こんにちは。ただいまより私の一般質問を行いたいと思います。午前中に吉川君が頑張れば、私もギャラリーの前で張り切られるかと思いましたが、寂しく一人、ここで頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

さて、私は新市長に対し、元気で活気のあるまち武雄市、きれいで安全で武雄市民が本当に住んでよかったなと自慢できる武雄を私なりに提案していきたいと思います。そのためには、財源対策としての、いや、若者雇用定着のための企業誘致や学校誘致は市長の行動力に期待し、私は地場産業、特に観光や農業面で地道に働き、汗かく人たちが報われる社会を大事にしてほしいことを願って、私の一般質問を行いたいと思います。

年間観光客数も平成10年には119万2,000人からここ数年は横ばいか、もしくは減少というふうな流れが来ています。そんな中で、元の武雄市第4次武雄市総合計画では平成22年には155万人を目標として掲げています。今、新市長はどんな観光に向かったの目標数字や計画を立てておられるか、まずそこからお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、観光の面でお尋ねがございました。私は率直に申し上げまして、武雄、武雄、武雄と幾ら叫んでみても、ちょっと限界があるのかなというのは率直に言って思っております。したがって、これからの観光を考える上で大事なものは、広域的に観光地をアピールすることが大事なんじゃないかなというふうに思っております。例えば、九州三都物語と称して佐世保、唐津、武雄と組んだり、あるいは嬉野と組んだり、いろんな広域的に観光客の皆さんが来てもらって、最終的に泊まるのは武雄ばいということで、そういった広域的な観光のルート連携に私は努めていきたいというふうに思っております。

先ほど平成22年度で155万人という、これは達成不可能であります。したがって、もう少し実のある数字を私は出していきたいというふうに思っております。

さらには観光資源であります。私がびっくりしたのは、例えば、三夜待、あるいはお茶講であります。これは大阪、東京の皆さんからすれば、我々は普通と書いていてもこれはすぐれた観光資源であると。これを観光ルート、あるいは観光の資源として私は出していきたい。これは職員提案でも既に出ております。私はある財産を、今ここにある財産を少しアレンジして観光に持っていく、そういう考え方をこれからもしていきたい。それをうまく情報発信するように首長として努めていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は今、武雄の観光を考えたときには、温泉と陶芸、それに山内、北方を含めたすばらしい自然、歴史と風土にはぐくまれた多様な文化や伝統があります。それをグローバルにまとめて、また、市内には学術的には江戸時代、長崎出島より蘭学を中心とした西洋文化をいち早く取り入れた文化があり、そのために武雄は歴史、文化の拠点をつくらうということで、佐賀歴史文化博物館を誘致しようというふうな運動も行ったわけです。それらを含めて、武雄の歴史や文化をどういうふうにとらえ、それを観光に生かしていくかを市長にお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

大変難しい質問で、私もちょっと一言では答えられないかもしれませんが、武雄は私も外から見た目からすると非常にいい観光資源、あるいは文化財産があるというふうに思っております。例えば、御質問で出ました長崎街道、これはまさに私は広域的にやらなければだめなんだというふうに思っております。昔、司馬遼太郎が長崎、佐賀、福岡を街道が行くと通ったときに、まさに佐賀、武雄ではなくて、その街道として広域的に話をされている。あるいは今、例えば、東北地方であります。これは一個の観光地がPRするのではなくて、歴史回廊という形でいろんな観光地と結んで広域的にやっている。したがって、武雄の文化的な財産も広域的にアピールができないかということは今、広域をキーワードに私は考えていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、市長は文化を広域的に見て観光拠点としてやるというふうなことで言われたわけです。私もなるほどだと思いますけど、私はそういう形で持っていけばちょっと話が困りますので……。

私は先ほど1番議員が言いましたように、武雄の表玄関をよくしよう、そして、大事にしたいというふうな声を聞いたわけです。私は武雄のまちが発展するためにはどうしても、表の玄関も大事でしょうけど、地方、地域が発展してこそ、武雄のまちも発展するんじゃないかと思っております。武雄のまちは高架にしても、都市計画にしても、また、下水道にしても、いろんなものがこれでもかというふうな形で投資されてきているわけです。それから考えますと、周辺部はどうしてもいま一つ、行政で日の目を見られないのが武雄市内の周辺部じゃないかと思っております。

そんな中で、私は今度の合併というものは、北方、山内、武雄を戦国時代の武将、毛利元

就の三本の矢ではありませんけど、三つが一つになってまとまって、武雄というブランドの中から観光資源の開発というものを今回は訴えたいと思います。

そういう考えのもとで、武雄のことを言えば余り話がかわらんわけですので、私の家の前から見えます杉岳のことを例にとって、私は今回の地域発展をぜひ地方からやってもらいたいという考えのもとでやりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

私の目の前に見えるものは杉岳です。杉岳は大聖寺という西暦700年ごろ、今より1,300年前、すなわち、橘の神籠石がつくられるころも1,300年前、武雄温泉が見つけられたのも1,300年前と言われております。そのように古い歴史のある大聖寺というお寺が杉岳にあるわけです。そこに私もちっちゃいころからよく、目の前でもあり、登ったわけですけど、そこには古いかやぶきの屋根があり、そして、2メートル50もあるような大きなマキの木を通し柱としたようなすばらしいお寺があるわけです。それはすばらしい匠の力だと思います。京都や奈良の神社にも引けをとらないような施設があるわけです。そして、その周りには大きな木、巨木がごろごろありまして、その中には日本一と言われるようなイヌマキもあるわけです。それらの資産というものが今度新しい武雄の中に組み入れられた観光地として、今までは日の目を受けないものが、これをどうにかして観光地として持っていけば、杉岳地区の今旬でありますヒワやミカン、タケノコなどを食材とした料理等々、いろんなものが、夢は広がってくると思います。

私はここだけではなく、いろんなものが今度の三つの中には、周辺部には隠された観光施設があると思うわけです。そんなものを掘り起こして観光地として開発すればもっとおもしろいものができるんじゃないかなというふうな考えを持つわけです。市長は杉岳のことをどういうふうにとらえておられるか、まずそこからお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

武雄の駅前も大事、杉岳も大事、私は杉岳には、小学生のころから大聖寺には実は行っておりました。その観点から言うと、非常にすばらしいお寺だということは、私が今こうやって大人になって観光面としてそういうふうになっております。

実は私がびっくりしたのは、女性誌に「婦人画報」という雑誌があります。そこに大聖寺の特集がありました。これは皆さん御存じだったでしょうか。そういった意味で、大聖寺だけじゃなかですけど、武雄北方の大聖寺が取り上げられていたという意味で、実は我々が知っている以上に東京とか大阪の方が知っている可能性が非常に高い。私はそのように考えておって、それは一つの潜在能力のあらわれだというふうになっております。

ポスター一つとっても、観光客が100%増になったり、減ったりします。せっかくだら観光資材なので、PRの方法、あるいはポスターのあり方、あるいはマスコミへの情報提供のあ

り方は私も率先して考えていきたいというふうに考えております。私は、非常にいい観光面での財産、市民の財産だというふうに高く評価しております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

共通の認識が初めてできて、ありがとうございました。

それと同時に、ここには黒髪山の大蛇退治のときに鎮西八郎為朝が当寺で祈願して大蛇退治に行ったというふうな話もあるわけです。これをいろんなところでは、西川登の高瀬には人身御供となったお嬢様を祭った神社があるとか、また、いろんな形が民話として残っているわけです。それらを取り上げることもいいし、それとともに私はこの大聖寺、杉岳で一番気に入っているのはアジサイの花だと思っています。このアジサイの花、そして、北方には高野寺のシャクナゲ、また、武雄市内を見ますと梅、桜、ツツジ、また、5月の連休を過ぎますと山々を黄金色に色づけて花咲かせるシイやカシの木、また、秋には山間部を中心にあぜに咲く彼岸花、すばらしい花が武雄にはあるわけです。これをぜひ観光マップとして取り上げ、散策のコースにでもすれば、すばらしい花マップができるんじゃないかなという考えを持つわけです。その点、花と観光という視点から何かあったらお答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

何かあったらどころか、大いにございます。というのも、花は私は最大の実は観光資源の一つだというふうに考えておるわけです。

今、京都でも奈良でも長岡京でも花を中心にした観光地ということで、4月には何とかの花、5月には何とかの花というふうに、既に観光の先進地ではそのようになっております。私はそれを取り入れたいと思いますけれども、いかんせん、私はお寺の住職でもございませんし、どういうふうにしてこれをPRしていくか、その認識をお寺であったり、神社であったり、観光地の皆さんに働きかけていくかということについては、まだ答えを持ち合わせておりません。どうかこの趣旨に御賛同の議員の皆さん方におかれては、そういったことをぜひお知り合いの、あるいは私からは観光協会にそういったことでもっとうまくホームページにできないかとか、そういうルートができないか、旅行代理店等々には私が働きかけていきます。どうか趣旨を御理解の上、私もこの趣旨は大賛成であります。ですので、御理解と御協力のほどをお願いしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は、今からの観光というものは、見せかけでつくって、ディズニーランドやハウステンボスもいいと思います。しかし、本当に長続きする観光というものは、日本人の心を底に、そのたたずまいこそ観光だと思うのです。そんな農村の原風景を見て回り、その後、ゆっくり温泉につかり、武雄の旬の食材を使った料理を食する観光、それが今、新武雄の観光の目玉にしてほしいと思います。

ついでであります。私は観光地として言えるかどうかわかりませんが、今度選挙運動で回ってみて感じたことですが、白岩運動公園や体育館周辺、また、この市役所の周辺でも同じだと思います。いろんなところに公共施設や道路、河川等があるわけです。その雑草の生えというものはなかなか見苦しい点があると思うわけです。これをどうにかならないのかなと思うわけです。せっかく行ったまちや地域、先ほどのスポーツ振興ということもあるわけですが、せっかく行ったグラウンドの周りが草ぼうぼうでは、いま一つ、観光武雄が泣くんじゃないかなという感じを持っておるわけです。ぜひこの点をどうにかならないかなというのが私の意見ですが、よろしくお願いします。

議長（杉原豊喜君）

9番山口議員、答弁要りますか。

〔9番「はい、答弁要ります」〕

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

何とも回答には困る部分がございますけれども、私はこのように考えております。

草ぼうぼうという話は私も認識は同じであります。私は湯布院の一つのあり方を参考にしたいというふうに思っております。行政だけではなく、あるいは住民だけではなく、あるいは業者だけではなく、みんなが一体となって目につくところをいろんな清掃をしておられます。私もそういう体制ができれば、先頭に立ってそういう清掃であったりとか、ごみ拾いであったりというのはやっていきたいというふうに思っています。したがって、どのようなところをどのようにするかということについては、もう少し議論を深めて、効果的な清掃活動であったりとか、草払いであったりとかというのは考えていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私はランオンズの仲間として、白岩運動公園の体育館周辺を仲間とともに草刈り機を持ち込んで1時間ほど、早朝に草刈りをしたわけです。そのときはきつくありました。しかし、済んだ後のすがすがしい気持ちというものは何とも言えないものがあるわけです。私はこのようにいろんな施設や道路、河川などをきれいにしたい気持ちを、ぜひ市民運動として盛り

上がるようなことをやるべきだと思うわけです。そして、地域住民や使用する人たちがきれいにしようという里親制度のようなものをつくり、武雄はいろんなところがきれいに整備され気持ちがいいねと言われるような環境整備、これも私は武雄の観光行政の一つだと思います。先ほどは市長の前向きな意見も聞きましたので、ぜひ検討されて、すばらしい環境整備ができることを期待したいと思います。

次に移ります。ますます進むであろう少子・高齢化社会、その中で今回私の質問は、子育てのしやすいまちづくりにはどうしても大事なことがあると思っております。それは、私はさきの9月議会でも質問しましたように、武雄保育所で行われている一時保育のことで

9月に困っているということをご質問して、その後、武雄保育所で行われている一時保育が行われるという制度を聞きました。それで大分助かりました。再度、この武雄保育所で行われている一時保育の制度がどんなもので、今後これをどのように武雄市としては進めていこうと考えておられるか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

中原福祉保健部長〔登壇〕

一時保育事業についての質問でございますが、一時保育事業は保育所に入所していない就学前児童で、保護者の病気、事故等により緊急一時的に保育が必要となる児童を保育所で保育する事業でございます。平成11年4月から武雄保育所で実施をいたしております。利用定員は9名で、17年度には年間延べ1,132人の利用がっております。現状といたしましては、日平均6人から7人で実施をしております、ニーズに対応できているというふうを考えております。今後、少子化対策等検討が必要になるわけでございますが、今後、各地域で実施していければというふうを考えているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、一時保育の内容を聞かせてもらいました。定員は9人で1日当たり6ないし7人、そして、延べ保育者が1,132人、これを六、七人で単純に割りますと、年間に200日ほどが利用されているということです。そのように一時保育というものは今の保育所の中では大変大事な保育の一つだと思います。それをぜひ市内一円にでも広げたいというふうな希望が提案されたわけです。

私は大いに結構だと思います。しかし、これをどこでもということは財源的にも無理があると思えます。一時保育をするということは、いつでも来られていいように待機の保育士がその保育所にいなくてはならないということです。それをどこにでもということは大変難しい問題を含むのではないかと考えています。それを私は在宅身障者や通園保育、親の送り

迎えを考えると、今の車社会の中では武雄保育所だけでなく、もう1カ所ぐらい公立でこのような保育所をつくってもいいんじゃないかと思っているわけです。

さきの、私の前の質問の中では、みんな今からは合併し、民営化するというふうな考えがあったわけです。私は民営化も大いに結構だと思いますけど、この子育てというものは大事な問題だと思っていますので、このような一時保育をぜひ公営でやってもらい、少々時間はかかっても、あそこの保育園に連れていけば安心して夕方まで子供を預けられるよというような武雄の子育てのシステムがあってもいいんじゃないかと思うわけです。ぜひこれを検討してもらいたいと思うわけです。今、答えができるかどうかわかりませんが、できたら聞きたいし、できなかつたら今後検討してもらってもよございませぬ。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

一時保育については、私は子育てするなら武雄という標榜をしている以上は極めて大事な問題だというふうに考えております。

私が思うに、他地域におきましては、もう既に民間の保育所が自分たちが生き残りのためにそんな保育士さんを確保したりとか、そういう場所の確保をしたりとかしていますので、私ができることといえば、そういったものをつくって下さいということをおの方から働きかけていくことはできようかというふうに思っております。子育てが大事だから公立ということには私はちょっと一部くみできませんけれども、その一時保育等の重要性については深く認識しているところであります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

そんな形で一時保育が、子供を育てる親に本当によかったなというふうな形で形成されることを期待したいと思います。

次に、農業対策についてお尋ねします。

市長は日本の食料政策をどう認識され、どうあるべきと考えておられますか。また、それと同時に武雄の農業をどんな方向に導こうと考えておられるのか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は食料政策については、基本的には地産地消が理想だというふうに思っております。自分たちの目の届く範囲で、地元の農家の皆さんがつくっていただいたものをおいしく食べる。これが私は食料政策の根幹だというふうに思っております。その延長線で武雄がどうあるべ

きかということにつきましては、先週の議会でもお答えいたしましたけれども、それを実現するためには守りの農業ばかりでは私は達成できないというふうに思っております。きちんとつくったものが所得にはね返るような攻めの農業、これが私はその比重を高めていかなければいけないと思ひますし、それが実現することによって、全国でも数は少ないですけども、高知県の馬路村であったり、あるいは京都の長岡京であったり、そういった成功事例がもう既に出ております。そういったところを参考にして、私は言い方はちょっとストレートかもしれませんがけれども、稼げる農業、雇用の面でも農業に従事したいと、そういった面も私はこれからは持っていくべきだ、それについて私もいろいろ知恵を出して頑張っていきたいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、市長より今までにない言葉というものを聞いたわけです。稼げる農業、もうかる農業、それが本当だと思います。今までどうしてもこんなところで質問をしますと、どうして荒れないような農地をつくるのか、農業はどうしたら守っていけるのかということだけが答えとして来たわけです。それでは我々農業者は浮かばれないのです。ぜひ今の市長の言葉ではありませんけど、もうかる農業、稼げる農業をぜひできるように、私はただいまから農業に対する質問を行っていきたいと思ひます。

今、農業政策として、今回の政府・与党の農業政策は、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水環境保全向上対策を内容とする経営所得安定対策が決定されて、農家所得の増大に向けての対策が大きく反映されているわけです。この品目横断的経営安定対策、すなわち集落営農は、現在武雄市ではどのように市民に理解され、どう取り組むようになっていのかをお尋ねしたいと思ひます。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員申されたように、品目横断的経営安定対策でございますけれども、これにつきましては、現在、武雄市とJAの集落営農組織づくり実践班一体となりまして、農家に入って組織づくりを進めております。この品目横断的経営安定対策でございますけれども、これにつきましては、これまで麦、大豆を作付した場合には農家に一律に助成があっていたわけですが、平成19年度からは担い手、認定農業者、それと一定の条件を備えた集落営農の組織のみに助成をするという制度になっております。

それで現在、旧武雄市管内では46組織、それから山内町管内では2組織、北方町管内では



6組織の54組織に対しまして、品目横断的経営安定対策に対しまして組織化を進めているところでございます。5月末現在で、武雄市管内で中野集落営農を初め8集落でこの営農組織の設立が済んでいるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、武雄市内は集落営農なり認定農業者の枠内に全部かぶってしまうということでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

武雄市といたしましては、認定農業者、または集落営農組織で今後農業の推進を図っていききたいということで現在努力をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は単純に武雄市内の全農家がこの集落営農及び認定農業者の枠の中に入ってしまうかどうかということをお尋ねしたわけです。もしこれがかぶらない地域があったり、農家があったりした場合に、今まで武雄の農業はライスセンターを中心にラジコンヘリや大型の汎用コンバイン等で集落営農、農区営農がある程度は確立してきたわけです。それが崩れてしまうのを一番心配しているわけです。

それで、質問を変えますけど、米の場合はそうまで農業所得には変わりはないわけですが、麦なり大豆を考えますと大きな差が出るわけです。それで、通告にも出していたように、同じ小麦を10アールあたりつくったとします。そして、反収を400キロと仮定した場合、集落営農に入っているかないかでどう農業所得が違うのかをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

認定農業者、また集落営農組織以外の場合には、さっき申しましたように、平成19年度から補助がないということでありまして、その集落営農なり認定農業者以外の方につきましては、助成の額が受けられないということで、その助成金の額が差となります。

具体的に申し上げますと、麦、大豆の具体的収入をさっき議員申されましたように、小麦で10アール当たり収量400キロで計算をいたしますと、助成金が51千円でございます。大豆で

は10アール当たりの収量200キロで試算をいたしますと、助成金が81千円となります。そういう単位で助成金が来るか来ないかということで差が生まれるということになります。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、麦なり大豆をつくった場合、販売単価は同じとしても助成金が麦では51千円、大豆では81千円の違いがあるというようなことが出されたわけです。これを1町歩としたら510千円、10町歩としたら5,100千円、大豆ではその810千円、10町歩では8,100千円という大きな数字になるわけです。このようなことを考えますと、ぜひ集落営農なり認定農業者の組織の大事さというものを、農協、生産組織と一緒に手を組んで、その組織づくりに邁進してもらいたいと思います。それが今後の武雄農業を守る一つの方策ではないかと私は考えます。

次に、農地・水環境保全向上対策事業についてお尋ねします。

この農地・水環境保全向上対策事業とはどんなもので、また、どうすれば事業が受けられるのかをお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農地・水環境保全向上対策事業でございますが、これは基盤となる農地、水、環境の良好な保全と質的向上、農業が本来有する自然環境機能の維持増進のために地域ぐるみで農地や水を守る効果の高い共同活動を支援する事業でございます。

事業対象となるための要件でございますが、一つに、農業者以外の人とか組織を含めた活動組織をつくるということが要件となっております。それから二つ目が、現状の活動にとどまらず、質的向上を図る活動計画を作成するというものが要件でございます。三つ目が、市町村と協定を結んで計画に基づく活動を実施すると、この三つが事業の対象となる要件となっております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

今、この中で私が一番知りたかったのは、この事業を採択するには集落営農、または認定農業者の組織じゃなければいカンのか、そいじゃなしでもよかとかなたということの、この1点をまず聞きたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

認定農業者とか集落営農組織の枠はございません。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

私は農地や水利施設を維持管理するには、今までは集落民が労働、いわゆる公役等で管理していたわけです。また、今からもなるだけそうやるべきだと私は思っています。でも、農道や用排水路、生活排水路などの維持管理には、どうしても地元民の公役だけでは済まない点が出てくるわけです。そんなときにこれらの事業を大いに使って、農村地域の生産施設及び環境保全がよりよくできることになるようお願いいたします。

次に、一昨年より川登地区や橋下地区では排水対策が行われているわけです。これを見ますと、私は排水対策というものは大変大事な農業政策だと思っています。これが川登地区及び橋下地区と、限定された地域だけが今行われているわけです。そこをよく見ますと、川登、橋下地区には農業面でしっかりしたリーダーシップをとる人がいて、地区の農業を常に考え、行動力ある人がいてこそその事業推進が行われると思います。それと同時に、土地改良組合がいまだあり、そこで組合長を中心にいるんな農業施設の維持管理が行われているわけです。それらを考えますと、現在、川登地区、橋下地区、武雄東部を残せば皆土地改良区は解散しています。こんな中で本当に排水や、今から起こるであろう農村地域の市道の舗装改良など、大きな多額なる出資を要するような事業設定ができたときに、本当に事業推進のための運動ができるのかという不安を持つわけです。その点、今のままで現状のこういうふうな農村地域の整備改良に伴う運動のあり方をどう思われるか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員おっしゃるように、現在川登、武雄東部、橋下、それから、ことし開催の予定と聞いておりますけれども、大崎の4土地改良区が現在ございます。その土地改良区があるところにつきましても、その土地改良区の方で事業を進めておりますけれども、それ以外につきましても、地区や水利組合等で現在そういう維持管理とかをやっております。今後は圃場整備が終わりまして、その維持管理がまた出てくるとは思いますけれども、この分につきましては、各地区の維持管理団体等の実態調査をしながら、その辺に対応していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

9 番（山口良広君）〔登壇〕

私は、このように行政主体で行われるのも結構だと思いますけど、ぜひ私は各地区にある、以前あった土地改良区や農政運動をやるような土地改良組合を全市内に再度構築して、全市で武雄市の農業構造施設を構築する時期が来ているんじゃないかと思いますので、それらも含めてぜひ検討されることを期待します。

次に、私は以前、17年6月の一般質問でも行いましたけど、今、農業機械は大きくなってあります。コンバイン、トラクター、田植え機が一般の道路を通っているわけです。一步間違えば大きな交通事故になるような可能性もあるわけです。また、遅いスピードは道路通行において一般車両には大変支障を来しています。この大型農機具の一般道路走行をどうにか安心、安全な形で走行できるようにしてみたい、それをつくりたい、私の希望です。どう思われるでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方からお答えします。

私もそうなればいいなと思っておりますも、地権者の都合等々があります。ですので、こういったところがこうすべきだという御指摘を含めていただければきちんと御答弁申し上げたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

9 番（山口良広君）〔登壇〕

私もぜひ大きな事故が起きないうちにできるようにしてもらいたいと思います。熊本などよその地域に行けば、国道や県道の側道を4メートル以上に整備し、農機具がスムーズに行き、また、そこには農作業の車を安心して停車して農作業ができるような地域もあるわけです。今後このような整備を、私は以前から農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業という、この事業を使ってやってもらいたいということを私なりに勉強していますが、なかなかこれを使ってというところまではまだ行き着いておりませんので、今後、行政と一緒に勉強し合っ、この目的税をぜひ農業者のためになるような農道整備に使われるようなことを頑張っ、てやっていきたいと思ひます。

次に、農産物の販売についてのお尋ねです。

今、市内においては黒髪ノ里、武雄の物産会館や北方の小さな農園など、いろんなところで直売が行われています。それと同時に、今からは農村においては団塊の世代の退職、また、新規就農者もふえてくると思ひます。現に私、花をつくっているわけですけど、その私たち

のところにも全然農地も持たない、農業の経験もない若者やカップルがぜひ花なり野菜をつくりたいからどうかしてくれというふうな声も聞くわけです。そんな方が今からは出てくると思うのです。そのときに、私は最初の市長の答弁ではありませんが、もうからんばいかん、稼ぎ得んないば業じゃなか、道楽と思うわけです。そのためには、どうしても販売というものに行き着くわけです。

今、いろんな道の駅や、いろんなところでやっているわけですけど、そこでは旬になれば白菜が山ほど出たり、大根の時期になれば山ほど出るし、また、今キュウリのあるところではキュウリがたくさん出たりというふうになっていくわけです。これをせっかくできた自慢の品物をどうかして売って金になるようなことを見つけ出したい、これも私は農政だと思っています。この点、どういうふうな考えを持っておられるか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私もさきに答弁したとおり、議員と認識は全く同じであります。そこで、私は一個提案があります。私が京都の郊外に行ったときにはと思ったのが、タケノコの時期になります。そしたら、1本10千円で洛西のタケノコが道でどっと売っとんさっです。だから、歩道でそういったふうに売りよんさっわけです。そこに私を含め観光客の人たちが集中して買いに来んさっです。それで、どういうふうなPR行動をとったかという、「るるぶ」であったりとか、いろんなホームページにも載せとんさっです。それが京都の洛西での年中行事になっているわけです。私はこういったやり方も参考にして、先ほど議員がおっしゃったような稼げる農業への後押しにしていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひいろんな形での販売というものは大事だと思います。その中で、この前、春には武雄のイチゴの仲間やキュウリの仲間、花の仲間が東京や大阪の方へ販売促進に行ったわけです。その中で、イチゴの仲間は市長が以前勤めていた高槻市の周辺の駅前で、デパートでも販売促進をやってきたわけです。ぜひ私はそこととは言いませんけど、アンテナショップなり、eショップなり、ぜひ姉妹的なつながりを持って、我々武雄の農産物があそこでも売られるよというふうな計画をつくってもらい、それが農業者の賛同を得て大いに発展するように持ってってもらえればなという気持ちを持っております。

それと、今パソコンの話が出たわけですけど、今、我々農業者は認定農業者の会というものをつくり、胸を張って農業者ということを訴え、叫びたくてうずうずしています。ぜひ認定農業者の会のホームページをどこかにでもつくってもらい、農業のよさをアピールしても

らえればなと思っております。

以上、それらを含めて、販売なりのロマンを聞かせてもらいたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ちょっとロマンよりも現実的な答弁をさせていただきたいというふうに思っております。

まず1点目であります。高槻市でイチゴが売られた。これは私も関与しておりましたけれども、非常に好評だったというふうに聞いております。こういった取り組みは私もできる範囲で、またさらにやっていきたいと思っております。

そこで一つお願いがありますのは、JAさんとか、いろんな団体で補助金等があります。このときにぜひ、やっぱりですね、東京の例えば高島屋であったり、伊勢丹であったり、売れたという実績をぜひつくってほしいというふうに思っております。そのために売れるための品質に向けて農業経営者の方々は頑張ってください。

なぜこんなことを申し上げるかということ、伊勢丹で売り切れたと、あるいは高島屋で売り切れたということが広がれば、それでブランドになります。私はそういった取り組みを車の両輪の一端としてもお願いをしたいというふうに思っております。

それと何でしたっけ。

〔9番「認定農業者のホームページ」〕

認定農業者のホームページは、私も実は余りデジタルは得意ではありませんけれども、ブログをやっております。市が指導するまでもなく、お手伝いするまでもなく、ホームページは私は今の時代ではつくれるものだというふうに思っておりますので、もし魅力的なホームページをつくっていただければ、我々はそこにリンクを張って、あるいは部屋をつくって、そういった意味での後押しはしていきたいというふうに思っております。

確かに市のホームページに取り上げると、アクセス数が10倍から100倍になります。この効果は非常に認識をしておりますので、ぜひまずつくっていただいて、その上で協働をしていけるようにしていただければいいなというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

9番（山口良広君）〔登壇〕

これもちまして私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。